

研修ガイド

防災ワークショップ・通学路（台風）編

70～120分

台風が発生した場合に起こり得る通学路の危険とそれに対する事前対策、指導を考える

1 ねらい

- ① 通学路の特徴や地域の実態を知り、課題や避難場所等を把握することができるようにする
- ② 台風が発生した場合に起こり得る通学路の危険とそれに対する事前対策、指導について考察することができるようにする。
- ③ 防災ワークショップを通して、全教職員が参加し、防災意識、防災対応能力の向上につなげることができるようにする。

2 流れ

- ① 通学路点検ポイント、方法の確認
- ② 通学路にて「考えられる危険箇所」等の確認
- ③ 帰校後「考えられる危険箇所」等の発表、まとめ
- ④ 「対策、指導」の書き出し、話し合い
- ⑤ 付箋のグループ化、まとめ
- ⑥ 全体シェアリング

3 準備物

- ・研修会進行資料……ファシリテーター進行表、進行スライド、グループ進行表、ワークシート、グループ地図……通学路をコース別に分けた地図、模造紙、付箋、フェルトペン3色（黒、赤、青など）ほか
- ・参加者……筆記用具

4 準備のポイント

① 通学路コース（エリア）&時間設定

- グループごと通学路の危険箇所を確認するコース（エリア）を事前に決めておきます。
例：「学校周辺コース」「○○公園コース」「国道コース」「○○商店街コース」等
- 研修時間も、コース（エリア）の範囲や距離に応じて70分～120分程度に設定します。

② 地図

- 通学路コース（エリア）に応じた地図を用意します。「通学路マップ」「市街地地図」等を活用します。
- 地図はグループ地図としてグループの意見をまとめる地図が1枚、同じ地図をグループの参加人数分準備をします。グループ地図はグループの意見をまとめるため、A3サイズ以上に拡大するとまとめやすくなります。参加者の地図はB5～A4サイズ程度とし、通学路点検しながら書き込めるようにします。
- 全体シェアリングにおいて実物投影機を活用すれば、地図をスクリーンで拡大し、発表しやすくなります。



5 活動内容のポイント

- ① 「台風編」ですが、同じような流れで地震・津波・雪など他の自然災害の想定に置き換えても、実施することができます。
- ② 本ワークショップ後に、通学中の自然災害発生時における学校の対応や取るべき行動について話し合うこともできます。（「はじめよう『防災ワークショップ』」3「防災ワークショップ」次のステップを参照）
- ③ 震災の経験を思い出して心身に不調を来す場合もありますので、参加者の様子などを観察し、配慮をお願いします。児童生徒等に指導する場合も同様をお願いします。

6 児童生徒等への指導・家庭、地域等との連携について

① 児童生徒等への指導

指導例	活動内容
安全な登下校 通学路安全 マップづくり	○流れ④「対策、指導」を省き、同じ流れで児童生徒用に工夫して指導します。 ・通学路別に班編制を行い、通学路探検をする。危険な場所、役立つ施設を見付けに行き、安全マップを作成する。
通学時の行動を 考えよう	○流れ④「対策、指導」の時にどう行動すればよいか考えさせます。 ・通学路別に班編制を行い、通学路探検をする。地図を基に自然災害が発生した場合、どう行動するのか、「学校近くで」「中間点で」「家の近くで」など状況を設定して話し合う。

② 家庭、地域等との連携

連携例	活動内容
通学路の 危険を知る	○同じ防災ワークショップを保護者や地域住民と行います。児童生徒等も一緒に行えます。 ・親子で本ワークショップを行い、通学路の危険と対策について考える。 ・自治会、PTAと危険箇所を確認・点検し、自然災害が発生した場合の対策・対応を考える。